

承元二年十一月 日

權大僧都(承恩) 在判

承元三年 己巳

紀元一八六九

二月。羽咋郡大福寺の薬師如來座像成る。

【大福寺薬師如來造像銘】 羽咋郡

六六

薬師如來

承元三年二月

大(願カ) 聖人

伽(院カ) 佛子

建曆二年 壬申

紀元一八七二

九月。越前氣比大神宮政所、石川郡椋部保等の神領惣目錄を注進す。

【氣比神社文書】 越前

六七

氣比大神宮政所

注進御神領作田所當米已下所出物等惣目錄事

(上略)

一、椋部保 加賀國

件保、往昔御神領圖免田七町也。而被別給之間、承安年中構打入是時、(之カ)庄不弁所當米、不勤仕社役也。抑有限御神領無故被停廢之條、社家訴訟在此事。
(中略)

右當社一年中所當米已下所出物等、且依往古例、且任當時弁之實、注進如件。
(齊カ)

建曆二年九月 日

勾當兼金宮祝散位角鹿

別當兼常宮祝散位角鹿

別當兼常宮禰宜散位角鹿

行事兼副禰宜散位角鹿

行事兼權禰宜散位角鹿

檢校兼正禰宜散位角鹿

建保二年 甲戌

紀元一八七四

八月。地頭某、僧慶心を鳳至郡西光寺院主職に補任す。

【西光寺文書】 鳳至郡

六八

下 大屋庄南志見村西光寺

補任院主職事

僧 慶心

右人以令被職者、爲執行寺務、但此御堂鎌倉殿御祈禱所也。地頭代并住民百姓等、宜可書煩者也。以下。
(不可辨カ)

建保二年八月 日

地 頭 在判

(地頭は、建久八年六月九日及び建仁元年八月の條のそれと同一なりとせば長谷部信連なるべきか。今西光寺既に原本を藏せず。)

建保四年 丙子

紀元一八七六

十一月廿五日。石川郡白山宮莊嚴講衆等、四度の大業勤仕の衆に准ぜられんことを貫首に請ふ。

【白山宮莊嚴講中記録】

六九

申狀非私要、爲佛法興隆也。早任狀引募四度之大

業、可致丁寧之勤行之狀如件。

惣長吏法橋上人位 在判

院主傳燈大法師位 在判

白山莊嚴講衆等謹解申請 兩所御裁事

請特蒙 慈恩被即講十五筋中募四度大業子細狀

右講衆等謹考案内、件講演者、最尊最上之法樂、殊勝殊妙之勤行也。爰以、法者依人弘傳、人者隨免積(集カ)都鄙之例花夷之法也。草創已後未有免談、是則將來陵遲元、法味

澆薄基也。然院中之大事、尤過四度之大業、若有御哀憐被募件業者、尤緣貧侶願止住悅、弁不致丁寧之勤續乎。

望請恩裁早任解狀、被立用件業者、法施期來際、佛種繼永代耳。仍錄狀以解。

建保四年歲次丙子十一月廿五日

大法師齊禪 在判

大法師智源 在判

大法師豪敏 在判

大法師晴覺 在判